

東北・月山周辺山スキー(さくおベース)

T野

メンバー：T野・I崎・Y科・H口y・M浦・A原・E居

2026年1月10日～11日

「10年に1度あるかどうかの寒波」がこの3連休にやってくるという。クリスマスに「10年に1度あるかどうかの暖波」が来たばかりである。

最近「10年に1度あるかどうかの・・・」が「月に1度あるかどうか」くらいの頻度でやってくる。ちょうど良い寒さがずっと続いてくれればよいものを、寒波と暖波が変わりばんこにやってくるので、雪がたくさん積もる日がある割には一向に積雪量が増えない。困ったものである。

この3連休は、昨年同様、お気に入りの宿「S」をベースに、月山周辺でスキーを楽しむ予定である。なのに、冒頭の予報である。まったく困ったものだ。

それでも、出発直前の予報を確認すると、初日だけは風は強いものの、天気はまずまずのようだ。ホントは、初日は寝不足なので、のんびりとした計画にしたいところなのだが、そんなことは言っていられない。今回は初日が勝負である。

ということで、前夜の出発時間をギリギリまで早めて、できるだけ睡眠時間を増やすことにした。前夜泊は福島駅前にある「ザ、セレクトン福島」というホテルを予約したが、努力の甲斐あり、日付変更線前に無事到着。サンデー毎日組は、さらに出発を早めて、すでに居酒屋で出来上がっていた。いいなあ～。

「ザ、セレクトン福島」は、A原さんが捜してくれた格安の宿だ。A原さんの宿探しの嗅覚には、いつもながら脱帽である。その価格からして、「どんなボロ屋か」と覚悟していたが、到着してみると、何とキレイで立派なホテルだ。朝食も朝6:30以降ならこの価格でも食べられるそうだ。今回は初日が勝負なので早立ち必須、断腸の思いで朝食は諦めたが、ここなら電車で来ても合流可能で、吾妻・蔵王周辺で遊ぶときには、今後もいろいろと使えそうである。軽く入山祝いして、明日も早いので(^o^)/ < おやすみー。フカフカの布団で爆睡する。

1/10



ホテルを朝5:30に出発。順調に走って西川町間沢のセブンで弘前から遠路、参戦したE居ちゃんが無事合流。E居ちゃんの変わらぬ笑顔は、メンバーにも波及し、照明が1ランク明るくなったような気になる。不思議な魅力の持ち主である。

■写真 いつもの道標。まだ雪が少ないね。



ここで朝食を採り、行動食など必要なものを購入し、当初は湯殿山を目指すつもりで志津温泉の除雪終了点まで行く。路肩には、すでに 40 台もの車が停まっている。どう考えても、今日は 100 人以上がこのエリアに入山しているようで大盛況だ。

安定した積雪量、天クラCとはいえ、好天の予報、それについて最近、石跳川のスノーブリッジが繋がったという記録がヤマレコに掲載されたこと・・・これらの情報が簡単に手に入るの、皆、考えることは同じなのだろう。



■写真上 湯殿山を望む。

■写真中 いい感じのブナ林を行く。

■写真下 南尾根に乗ると朝日連峰が競り上がってくる。

我々も準備を整えて 8:50 に出発。いつもの道標で積雪量を確認、まだ、昨年と比べて 1m 以上少ない。いつものように、自然博物館から石跳川沿いのトレースに行く。確かに天気は最高なのだが、気温が高く早々にアウターを脱ぐ。

「ムムムこの状況と雰囲気は・・・？」

それは、ついこの間、年末（12/29）に訪れた、八甲田の硫黄岳東面と全く同じだ。あの時の如何ともし難い「生コン雪」がふと脳裏をよぎる。真冬のサラッとした粉雪が、陽が当たっている場所では、すでに重くなり始めている。しかも、今日の森林限界上は南風の爆風予報である。気温が上がって日差しに照らされ、まともに南風に叩かれたら・・・「ハイ、生コン雪一丁アガリ！！」なんてことにもなりかねない。八甲田の



時は東面の大斜面が生コンだったが、西面は良い雪が温存されていた。



あの時と状況が一緒に嫌な予感がしてきた。

湯殿山は東面と南面がメインルートなので、いずれも陽が当たりやすく、特に東面は今日の風向きと気温を考えると、生コンの可能性も否定できない。それに、傾斜が急で気温も高いので雪崩も少し心配である。さらに、湯殿山と姥ヶ岳の分岐まで行くと、圧倒的に湯殿山に行くトレースが太く、入山者が多いようだ。一方、姥ヶ岳方面は、まだトレースが薄く、数人しか入っていないように見える。姥ヶ岳は西面と南面がメインルートなので、年末の経験からして斜面を選べば、森の中は、まだ日陰のいい雪を滑れるかもしれない。なんといっても、入山者が少ないので、斜面が荒れていない……。そんなこんないろいろ考えた末、予定を変更、今日は姥ヶ岳に向かうことにする。



■写真上 雪煙舞うシュカブラの海に行く。

■写真中 姥ヶ岳山頂！！

■写真下 神の山 月山！！



湯殿山分岐からも、しばらく石跳川沿いに歩き、右側にある1015mの小ピークを過ぎたあたりから沢を離れてブナ林の斜面を登る。この辺りのブナ林は佇まいが素晴らしく、歩いていてホントに心地よい。天気が悪い時は、いつもこの辺りで遊んでいるお気に入りの森だ。しかし、「本日は晴天なり！！」こういうチャンスには迷わず上に行こう！！

ブナ林の斜面を登って行くと1250m付近で姥ヶ岳南尾根に乗る。ここからは樹林も疎



らになり、森林限界を超える
と風当たりが強くなる。ただ、
天気は素晴らしく、いつも見
慣れている景色ではあるが、
風に洗われ、辺りの山々が普
段より一層クリアに見える。
純白の湯殿山東面には、すで
にたくさんのシュプールがお
絵描きされている。どうやら、
雪質と雪崩の心配は杞憂だっ
たようだ。

背後には朝日連峰の銀屏風
が競り上がり、その稜線は爆
風で雪煙が上がり、いつも以
上に迫力のある姿を見せてい
る。

南尾根は、強風の中の登高
になるが、南風なので基本追
い風、背中を押してくれて登
りを助けてくれる。ただ、こ
の尾根は意外に距離がある。

上部に行くにつれ、シュカ
ブラ帯がメインとなり、板で
乗り越えながら進んでいく。
強風で雪煙舞うシュカブラの
海の登高は、まるで自分が氷
の海を切り裂いて進む砕氷船
になったような気分だ。

やがて、前方に月山が見え
てくれば、山頂はもうすぐそ
こである。それにしても、こ
の時期の全山氷結した月山は
まさに神の山！！特に、山全
体に雪煙が舞う今日の月山は、
荘厳で近づきがたい迫力があ
る。

■写真上 シュカブラの海を
越えて歩く。

■写真中すでにシュプール
がいっぱい描かれた湯殿山。

■写真下 我々も姥ヶ岳大滑
降！！

楽しみにしていた鳥海山は、
上部に雲がかかって残念ながら
全貌は望めず、まるで明日





からの悪天を予見しているようである。

さあ、山頂で充分景色を味わったらサッサと下山だ。強風にシールやグローブ、袋などの小物を持って行かれないように慎重に準備をして、いざ、滑降！！

シュカブラの滑降に苦労すると思ったが、視界が良いので巧く避けて滑って行ける。そしてシュカブラの海を抜ければ、あとは一気に快速運転！！大自然のゲレンデは雪質も良く実に快適。メンバーの滑降シーンをビデオに収めながら滑る。皆、楽しそうだ！！長かった南尾根の登りも、スキースキーで滑ればあっという間だ。大斜面を一気に滑り降り、ブナ林に入る。ここは雪質と傾斜を考えて、登ったルートより1本北にある尾根を滑ることにする。標高が下がるにつれ、パウダーとはいかず、雪は重くなるが想定内の雪質でまずまず快適に滑って石跳川まで一気に滑り降りる。上の爆風が嘘のように穏やかな森で一休み・・・癒される。ここからは、湯殿山東面を滑った人たちのトレースがあり、石跳川沿いは、ほぼ自動運転で下山。充実した1日であった。



■写真上 最高！！

■写真中 お楽しみの「S」での宴会

■写真下 各地の地酒飲み比べ！！

さあ、下山後のお楽しみは、お気に入りの宿「S」での宴会である。チェックインして、まずは大井沢温泉で冷えた体を十分に暖め、宿に戻ればメンバー



が持ち寄った日本各地の銘酒の飲み比べ。これがなかなか楽しい。そして女将の心づくしの手

料理。我々が酒を楽しむのを知ってか知らずか酒の肴にぴったりの料理が多い。イヤイヤなかなか贅沢な時間であった。そして眠たくなったら暖かい布団で熟眠、これが幸せというものである。

■コースタイム

志津温泉除雪終了点（8:50）～（9:08）いつもの道標（9:15）～（10:18）斜面取付き（10:30）～（13:22）姥ヶ岳（13:43）～（15:05）志津温泉除雪終了点

1/11



せっかくの3連休中日だが、如何せん天気が悪い。ただ、10年に1度あるかどうかの寒波という割には妙に気温が高く、水分の多いバタ雪が降っている。女将が雪かきをしながら「何この雪！！ビチヨビチヨだわ」と服を濡らしている。これは、相当濡れそうな雪で気が重い。

冬山は気温が低いから寒いのではない。濡れるから寒いのだ。気温が高いとグローブも衣服も濡れ、低温時の粉雪よりはるかに始末が悪い。雪が良ければ八ツ楯山を考えていたが、これは少しでも標高を上げた方が良さそう。ということで、今日は、湯殿山の森を行けるところまで行くことにしよう。

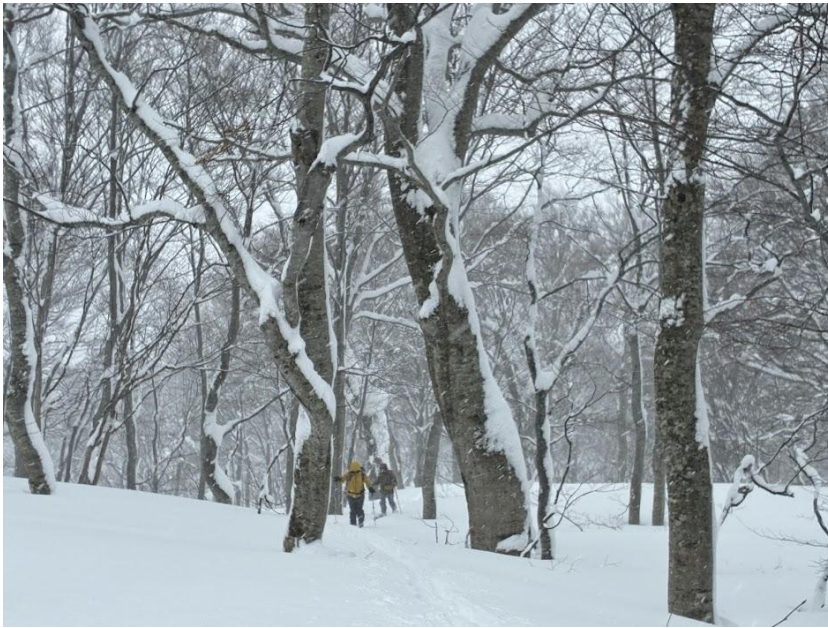
■写真上 昨日とは打って変わって湿った雪が降る中を出発。

■写真下 いいブナだね！！



昨日と同様に志津温泉の除雪終了点に車を停めるが、連休中日にもかかわらず停まっている車は4～5台・・・昨日とはえらい違いだ。まあ、こんな天気なので地元の人には来ないのだろう。湿った雪だが質より量で30cm位は積もっている。

8:30頃出発。自然博物館までは先行者のトレースがあったが、ここで先行パーティーを抜けば、その先はノートレースで膝下のラッセルとなる。



昨日辿ったルートを湯殿・姥分岐まで行き、石跳川を渡って湯殿山南尾根に取付く。昨日の喧騒が嘘のように静まり返っていて、これはこれで好ましい。森の中は、風もそれほど気にならず充分行動可能だ。ノートレースの雪面にルートを作るのも楽しい。

一瞬、空が明るくなって姥ヶ岳の尾根が見えてきて期待を持たせたが、さすがにそれは甘かった。登るにつれ、森の中でも風が強くなり、視界も悪くなる。1180m付近まで登ったが、この上は行っても楽しい滑降は見込めず、単なる修行となりそうなので、全員一致で今日はここまでとする。修行を好むメンバーは、残念ながらというか、幸いにもというか・・・我々の仲間には存在しない。

さあ、森の中を滑って楽しもう！！と思ったが、雪質がパツクされていて、思っていたより楽しい雪ではない。距離が短いので、登り返して遊ぼうと思っていたが、この雪ではそれもナシだな・・・と、頭の中は美味しいランチと温泉、それにその後の宴会の楽しみが幅をきかせてくる。きっとメンバーも皆、同じようなものだろう。こういうところは、やたらと意見が合うメンバーなのだ。

■写真上 湯殿山もいいブナ林がある。

■写真中 あれえ～昨日より酒が増えてるぞ！！

■写真下 今日のメインはおでん！！

ということで、おとなしく



滑って行くと、森の下部には良い雪が溜まっていて、それなりに楽しくなってくる。頭の中が完全に下山モードになっていたのも、そのまま滑り降りてしまったが、あとで考えてみると、ここだけでもおかわりしても良かったかな、と少し脳裏をかすめた。

最後は昨日と一緒に、石跳川沿いを自動運転で下山。まあ、悪天なのでこんなもんかな。

昨日からの供給したエネルギーを消化したとはとても思えないが、さらに新たに供給すべく下山後は「道の駅にしかわ」で下山飯。セブンで買出ししたら、温泉➡宴会と昨日と同じコース。あれれ、昨日よりテーブルの上の酒の種類が増えているぞ・・・。

■コースタイム

志津温泉除雪終了点（8:30）～（10:41）1180m付近（11:00）～（11:55）志津温泉除雪終了点

1/12



目覚めると昨日にも増して本格的な雪である。気温は昨日と比べて明らかに低い。3日目にして本格的な寒波が来たようである。早朝から我々のために女将が「これが本来の大井沢の雪よ！！」と言わんばかりに外で雪かきをしてくれている。有難いことで、逆に申し訳ないくらいだ。

■写真 「S」の前で女将も一緒に。お世話になりました！！

今日の天気予報と、この降りを見て、E居チャンは弘前までの道中が心配ということで、山には登らずに帰ることを決めたようだ。普段、雪国で暮らしていて、慣れているとはいっても、一人だとさすがに不安なのだろう。我々もこの雪なので最初からあまり登る気はなかったが、一応、八ツ楯山の取付きに向かい様子を見ることにする。しかし、今日も車は1台も停まっていない。昨日も一昨日も停まっていなかったのも、きっとまだ十分に雪がないのだろう・・・それに、なんといっても入山したいと思える天気ではない。これで完全に諦めもついて、山に入らずにそのまま帰京することにする。（なお、後でヤマレコを見たら1/10に八ツ楯山に登っている記録があり、雪は重いものの普通に滑っているようだった。）

今回は、最初に思った通り初日が勝負の山行でした。でも、その初日に良い思いができたので満足です。それに、「S」ベースの快適な居心地と女将の気配りと手料理は、我々を幸せな気分にさせてくれます。皆で持ち寄った各地の日本酒の飲み比べも良かった！！
ということで、また、来年もこのツアー計画しますので、ぜひ一緒にしましょう！！